



▲やさしい人柄を表す笑顔の白石氏

偉人たちの戦



～人生は誰しも戦、勝ち旗は自分で掲げる～

東秩父村から後世へ受け継ぐべき偉人の歴史をご紹介します。第2弾は「白石英雄氏」です。白石氏は、今の東秩父村の礎を築かれたとして、名誉村民ともなられた方です。

このページは、現在を伝達する「広報」から、過去をのぞき見る「広報」に…今を生きる人へ、自分たちの今の暮らしを作ってくれた「善き戦を戦われた」方たちを知ってください。

東秩父を戦場とした偉人たちへ、その栄光をたたえて。

—白石英雄氏—

前回では白石英雄氏の生涯についてふれました。2回目となる今回は、白石氏が東秩父村をどのように作り上げたのか、その施策等をご紹介します。皆さんにお馴染みのあの施設や施策が登場しますので、きっと「あれもこれも、できたのは白石村長の時だったの？」と驚かれるでしょう。

○保健と福祉

白石英雄氏は、昭和47年9月7日に第3代東秩父村長に当選しました。はじめに白石村政は、当選した年度の12月26日に村単独のねたきり老人手当等支給制度を設立し、1月より施行しました。日本で昭和38年に老人福祉法が制定されて以来、当時の市町村では、様々な施策により高齢者への福祉・保健的対応を行っていた状況です。そこで本村では、重い病気や障害などでねたきりを余儀なくされた高齢者、またその家族のために村独自で支援を行うことにより、最後の時を迎えるその日まで安心して暮らせる村づくりを推進してきました。当時から白石氏は「本村は高齢者が大半をしめる村になる」ことを常日頃から予見しており、未来の村民を思いやる施策を展開していくことに力を注いでいたようです。

また、昭和63年4月1日に「東秩父村保健センター」を開所し、保健医療の根幹となる拠点整備にも力を入れました。保健センターに

第2章

白石英雄氏の功績

は保健師数名を配置し、高齢者の相談だけでなく、母子保健の窓口として現在も活躍しています。

○東秩父村の確立

もともと2つだったものが真の1つになるには多くの年月が必要でした。当時の村政は、昭和31年に「大河原村」と「槻川村」が合併して「東秩父村」が誕生して以来17年、一部分新村・旧村2本建て財政という変則で執行されてきました。そこで、昭和48年3月21日に、村発足の際設置された旧村の財産審議会等の条例を廃止、旧村にまつわる複雑な財産関係を清算することにしました。このことは、合併以来常に話題にのぼっていた新村の制度的な障壁が取り除かれ、村の一体化が推進、真の合併が実現したと評価されています。「東秩父村」として確かな形となったのち、様々な施策により本村はさらに発展していったのです。

○教育施設の整備

義務教育施設の整備等も白石村政の時に行われ、本村の児童・生徒の皆さんが

通っている今の小・中学校の校舎を建てたのも白石氏の時でした。特に東秩父中学校の建設に向けた土地交渉等はかなり難航し、白石氏も骨を折ったといえます。ご家族のお話をうかがったところ、1カ月以上自宅で顔を合わせることはないくらい白石氏は仕事にかかりつきりで、交渉等に力を注ぎ熱心に取り組んでいた、と当時を懐かしく振り返っておられました。今の環境下で義務教育が受けられるもの白石氏の努力のたまものであることを皆さんは忘れてはなりません。

白石氏の功績をお伝えするために、1回の特集ですべてお伝えすることができませんでしたが、村への貢献度は高いものでした。次号では地域コミュニティや商工の発展へのつながりをご紹介します。と思います。